

【2018年】

小学生が地下ダムの仕組みを学習（第7回夏休み野外学習会）

沖縄総合事務局土地改良総合事務所では、平成30年7月26日(木)と27日(金)の両日、国営事業で造成した農業用の地下ダムがある糸満市、八重瀬町の小学生とその保護者を対象とした夏休み野外学習会を開催しました。

糸満市にある米須（こめす）地下ダム、八重瀬町にある慶座（ぎいざ）地下ダム、仲座（なかざ）ファームポンド、仲座加圧機場を回りながら、施設管理者の沖縄本島南部土地改良区と共に、地下ダムができてから変わってきたこの地域の農業の様子や、施設が果たしている役割などを説明しました。参加した小学生たちは、「地下ダムの貯水量は学校のプール何杯分なのか」といった3択クイズに元気に回答し、保護者たちは地元産の野菜や果物の生産に地下ダムが貢献していることに納得していました。

また、慶座地下ダムでは、地下ダム止水壁を越流している水に触れたり、生息するテナガエビを見つけて歓声を上げていました。

今回の野外学習会には、2日間で69名(小学生40名、保護者29名)の参加がありました。解散時に回収したアンケートでは、多くの好意的感想が寄せられ、「今日の学習では、地下ダムをなぜ作ったのか、どれだけ水をためられるのか、何に使われているかを知れて良かったです。(小学生)」、「地域農業の発展に地下ダムがかかせないと思う。糸満市や八重瀬町全域に地下ダムの水が届けられるよう願います。(保護者)」との、PRの手応えを実感させる感想もありました。

当所では、今後も定期的に学習会を開催していくこととしています。

